

# 一寸光陰不可軽

## 人国記

大学研究室のような第4シャシー設計係で約2年間過ごしたあと、主に商用車を扱う第3係に移り、トラックなどの改良に明け暮れる毎日が続きまし

た。そんな中、私にとって「初めて手がけた乗用車」となるはずだった仕事  
が舞い込んできました。それは「キャ  
ロル・ロータリー」。マツダが当時発  
売していた軽自動車「キャロル360  
0」にロータリーエンジン（RE）を  
搭載しようと、完成させながら発売に  
至らなかつた「幻」の軽RE車です。  
昭和37年に登場したキャロルは、  
「クリフカット」と呼ばれる独特のデ  
ザインやアルミ製エンジンなどの凝っ  
た作りで人気を博し、マツダの軽自動  
車シェアを圧倒的な数字に押し上げま  
した。しかし、40年代になるとホンダ  
の「N360」をはじめとする軽のパ  
ワー競争から脱落し、すっかり存在感

き 貴島 孝雄 (62) ⑨

元マツダロードスター主査

を失った。そこで、当社の切り札だっ  
たハイパワーのREを、キャロルにも  
切ろうとしたんですね。

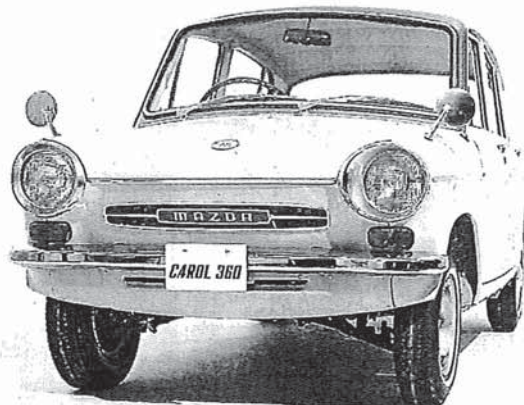
当時は石油ショックの前で燃費の良  
しあしはあまり問題にならず、マツダ  
は全車にREを積む勢いだったし、小  
ぶりで高出力のREは軽にうってつ  
け。こうして開発が始まりましたが、  
間もなく私たちの所へ「車体の振動を  
止めてくれ」という要求が来たんで  
す。

調べてみると、アイドリング時にエ  
ンジンの振動がもろにドライバーに伝  
わる深刻な問題を抱えていました。そ  
の解決策として私たちは「ダイナミッ  
クタンパー効果」という手法を取り入  
れ、サスペンションの揺れを利用して

# “幻”の軽ロータリー車

共振させ、エンジンの振動を打ち消す  
仕組みを作ったんです。エンジンやサ  
スペンションに取り付けているゴムの  
硬度やセッティングを変え、何とか振  
動を収めました。地道な作業でした  
が、なかなかの高等技術でしたよ。  
こうして難題を乗り越え、「打倒、  
N360！」を実現する42馬力のハイ

20ccの車として扱うべきだ」と。運  
輸省と5社との間にどんなやり取りが  
あって出た嘆願書だったか知りませ  
んが、ライバルにしてみればきつと脅威  
だったんでしょう。結局認可されるこ  
とはなく、「技術的に正しいことをや  
ってもこんな目にあうのか」とやり切  
れなさだけが残りまして。キャロル・  
ロータリー、世に出ていれはきつとお  
もしろい存在だったのに…。



人気を博した「キャロル360」。ロータリー化は幻に終わった（マツダ提供）

パワー車が完成し、運輸省  
（当時）に認可申請しまし  
た。しかし、いくら待てど  
も審査が始まらない。やが  
て、運輸省から「実は、軽  
メーカー5社から嘆願書が  
出て…」と告げられまし  
た。「REの360ccは、  
軽自動車として認められな  
い」という主張です。  
REは特殊なため、排気  
量の計算は燃焼室の容積に  
一定の係数（当時は  
「2」）を乗じることにな  
っているの、各社は「7



九州・山口

産経新聞九州山口版は月ぎめ購読料3000円の朝刊紙です。  
九州山口地域でも、ご自宅や会社に配達いたします。申し込みは  
下記のフリーダイヤルか、専用サイトで。

ニュースのご連絡は  
九州総局

TEL 092(741)7088  
FAX 092(726)2572  
kyushu@sankei.co.jp

〒810-0004  
福岡市中央区渡辺通  
5-23-8  
サンライトビル3階

山口支局

TEL 083(923)3333  
FAX 083(923)3334  
yamaguchi@sankei.co.jp

〒753-0074  
山口市中央3-6-2

購読のお申し込みは  
☎ 0120(34)3733  
www.sankei9.com

販売のお問い合わせは  
TEL 092(741)2323

広告のご用は  
TEL 06(6633)9474